

## カリフォルニアの風 (4月号)

令和4年度の日本語補習校が始まりました。全校での対面授業はおよそ2年ぶりです。それぞれの校内では、皆さんの明るい笑顔が見られ、元気な声が私の方に届いていました。その中、「始まったね」とこっそり伝えると、「今日が来るのを指折り数えていました」という返答があったり、入学式での在校生からの歓迎の言葉にはからずも拍手が起きたりと、皆さんがいっしょに学び合えることができることを心から喜んでいると感じました。

さて、私は今年度愛知県名古屋市から赴任いたしました校長の水谷靖(みずたにやすし)です。私は、「み」みなさんと、「ず」ずっと、「た」たいせつ(大切)にしていきたいこととして、「に」にほんごほしゅうこう(日本語補習校)で学ぶ子どもたちが、「や」やさしさに包まれて、「す」すごく、それが「し」しあわせ(幸せ)に感じられる学校でありたいと思っています。

学校ではおおぜいの子供たちが生活しています。その学校でやさしさに包まれて生活するには、「思いやりの心で人に接する」というのが一番大切なことではないかと思っています。お友だちの中にはこの「思いやり」をたくさんもっている人がいるでしょう。では「思いやり」とはどんなことを言うのでしょうか。一つの詩を紹介します。

思いやりのある子とは、  
まわりの人が悲しんでいれば共に悲しみ、  
喜んでいる人がいれば、その人のために一緒に喜べる人のことだ。  
思いやりのある子は、  
まわりの人を幸せにする。  
まわりの人を幸せにする人は、  
まわりの人によって、もっともっと幸せにされる、  
世界で一番幸せな人だ。  
だから、心のやさしい、思いやりのある子に育ててほしい。  
それが私の祈りだ。  
さようなら。

この詩は、病気のためになくなった若いお医者さんが愛する娘さんに書き残したものだそうです。思いやりとはどんなことかよくわかる詩ですね。相手を思いやるやさしい心は、お友だちとよい関係をつくるうえでも大事なことです。新年度が全校対面授業で始まったにあたり、思いやりのある心をもった心優しい人になるようがんばってみましょう。

保護者の皆様へ

令和4年度の新学期、お子さんは「受け持ちの先生はどんな先生かな」「どんな人とお友だちになるかな」「教室はどこかな」など色々と考えていたこと、またお家の方は「良いスタートが切れるかな」「◎年生としてしっかりやっていけるかな」など心配されていたことと思います。でも、心配はいらぬように感じています。入学式や授業でお子さんたちを見ていると、「がんばろう」「しっかりやろう」という気持ちが私のところに伝わってきたからです。これは、とても素晴ら

しいことで、お家の方の協力があつたからこそと感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、各学部の入学式で入学生や在校生のお子さんたちに向けて次のお話をいたしました。

幼稚部のお子さんには、大切なこととして二つ、

一つ目は、先生やお家の人の言うことをよく聞きましょう。

二つ目は、自分でできることは自分でしましょう、そして自分でできることをどんどん増やしていきましょうと。

小学部のお子さんには、三つ、

一つ目が、学校に休まずに来る。二つ目は、先生のお話をよく聞く。

三つめは、お友だちと仲良くする、一緒にお勉強をし、一緒に遊ぶお友だちを大切にしましょうと。

中高部のお子さんに向けては、

「自分の進路について考えよう」。それは、将来の夢や目標を持ち、その実現を目指すことが人を生き活きとさせてくれると考えているからです。また「身近な人を大切にしよう」。人は一人では生きられません。他の人との関わりの中で成長していきます。そこで、先生や共に学ぶ仲間とのよりよい関係を築き、互いのよさを認め合うようにしてほしいと思っているからです。さらに、高等部のお子さんには、サンフランシスコ日本語補習校の最高学部の生徒として、リーダー性を発揮してくれることを期待します、と結びました。折しも、入学式直前、高等部の生徒たちが式の準備に勤しむ様子を見て、校長式辞に「ありがとう」の言葉を追記し、感謝の思いを伝えました。本校には、ボランティア精神あふれるとても素敵な子どもたちが育っていること、そしてその子どもたちの未来を想像すると責任の重さに身が引き締まる思いも持ちました。

最後に、私たちサンフランシスコ日本語補習校の学校教育目標は、『日本語で学び考え、国際社会に貢献する、生きる力の育成』です。具体的には、本校で学ぶ子どもたちが、将来、持続可能な国際社会の担い手として、人種や文化を越え、それぞれのよさを尊重し協働しながら問題解決に取り組む「生きる力」を育て、「いつか世界の架け橋に」なることを願っています。そのために常に子どもを中心にすえた教育を推進してまいりますので、安心してお任せいただきたいと思えます。それと同時に、本校の教育にご理解をいただきご協力をお願い申し上げます、4月号の挨拶といたします。